

【全体概要】

大麦品種のうち、 β -グルカン含有量が高いもち性大麦については、健康効果への期待や注目の高まりから需要が拡大している。国産もち麦が求められている状況において、実需者と連携を図り、はねうもちの需要拡大と産地の活性化を行い、生産拡大を図っていく。

新品種・新技術等の概要

【はねうもちの概要】

- ・中央農業研究センターで開発されたもち性大麦新品種
- ・健康機能性成分である水溶性食物繊維 β -グルカンの含有量が高い。
- ・本県の主力大麦品種であるファイバースノウ（うるち性大麦）とほぼ同等の栽培性を持つもち性大麦品種である。



収穫期のはねうもち



収穫前のはねうもち

【 β -グルカン向上・安定化栽培技術の確立】

- ・ β -グルカン向上のための施肥技術の確立
- ・およびRCヘリを活用した追肥施用の省力化について検討

主な取組内容

【栽培技術の検討】

- ・栽培講習会の実施
- ・実証圃成績検討会の実施

【品種・技術の実需者ニーズ等適応性試験】

- ・精麦特性・成分分析の実施
- ・栽培技術に関する調査

【産地ブランド候補の選定】

- ・「麦の特性評価検討会」において関係機関による意見交換を実施

【コンソーシアム候補形成活動】

- ・実需者への品質・成分分析結果等の情報提供
- ・産地ブランド発掘事業実績報告会の実施
- ・もち性大麦の実需評価および事例調査

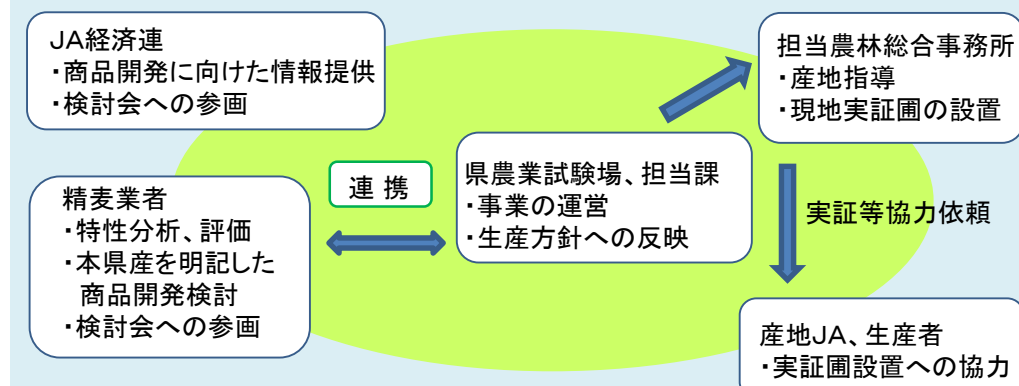


実績報告会



新潟県への事例調査

コンソーシアム候補の体制図



実績と今後の展開

○平成29年産作付面積4ha、平成30年産作付面積66ha、令和元年産作付面積862ha(見込み)と徐々に作付が拡大

○実需者を集めた麦の特性評価検討会を開催し、福井県産もち麦のニーズを確認

○県関係部署、JA経済連、精麦業者、産地JA、実需者と連携し、はねうもちの需要拡大、特性を活かした商品開発について情報共有を図り、コンソーシアム候補の形成をすることが出来た。

○積極的に実需者との協議を行い、実需者意見を生産現場へと反映させ、はねうもちの需要拡大と認知度の向上を図る。